高柳交流観光通信　　2022年3月号 VOL.4

まってるすけ高柳

☆「風景を守り、お客様とつながる」門出かやぶきの里近況報告です

○今から 37 年前(1985 年)、ススまみれの顔で地域の若者達(水曜会)が「ガキ大将の館」にするため毎日曜日、上り酒を酌み交わしながら知恵と体力で始めた道楽仕事は、1987 年季節民宿となり、その後現在の門出ふるさと村組合の運営となりました。

「じょんのび村構想」の原点でもあります。

○近年は年間 1,500 名ほどの方からご利用頂いておりますが、コロナ禍によって常連客の方々も迷惑かけてはいけないとのお気遣いもあって、現在はほぼ休業に近い状態です。

お客様の目的は母ちゃん達の「ごっつお」です。プロが作るのではない門出の魅力です。

結局「人」が決め手。手段として風景が必要になります。そのためには多すぎず、少なすぎずのお客様数への対応が求められます。

○そのかやぶきの風景を守るため、15 年ほど前に「門出かやぶきの里友の会」を設立頂いて、宿泊された方々から 200 円～300 円を等しく負担いただいております。

その維持基金から毎年のかや屋根のメンテナスをさせてもらっております。

○「来れない・迎えられない」なか、友の会の皆様に何か出来ないかと、一昨年から役員・スタッフ総出で正月用の餅をつき、ほんの少しづつですが「心もち」としてお届けしたところ、随分喜んでいただいておりありがたいことです。

○地域おこし協力隊員の小柴康隆さんは、かやぶき屋根修復でお世話になったかやぶき職人大崎悠さんの手伝いの中から、今後職人を目指したいと任期後も当かやぶきの里の仕事を兼ね、また高柳地域内の時々の仕事を手伝いながらこの地に残ることを決心してくれましたので、その折はよろしくお願いいたします。

○少しづつ、少しづつ、この門出かやぶきの里が地域に根を張って行ければと願っているところです。

(門出ふるさと村 組合長 小林康生)

★4 月、おやけ棟の屋根修復

★12 月、役員・スタッフ総出で
4 升、6 臼の餅つき